

## 福島県のカツオ漁業における最近の状況（短報）

渡邊昌人\*・佐藤美智男

Recent Status of Tuna, *Katsuwonus pelamis* Fishery in Fukushima Prefecture (Short Paper)

Masato WATANABE and Michio SATO

福島県の属地統計でカツオは 2003 年以降、数量も金額も第 1 位の魚種である<sup>1)</sup>。しかし、近年は水揚げの減少やサイズ組成の変化がみられていることから、統計データや測定データを解析し、福島県のカツオ漁業における最近の状況を整理した。

統計データは福島県海面漁業漁獲高統計に基づいて作成された福島県主要魚種の漁獲推移<sup>2)</sup>を用いた。2001 年以降のカツオ漁獲量は最大が 2005 年の 15,095 t、最少が 2009 年の 4,542 t で、2005 年以降は毎年数量が減少した（表 1）。9 年間で平均した月別漁獲量は 7 月が 3,257 t で最も多かった。漁獲量が最も多かった月は 2002 年を除き 2006 年までは 7 月であったが、2007 年以降は 6 月であった。

表 1 福島県におけるカツオ月別漁獲量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2001年	13	65	11	29	820	1,688	4,510	1,284	345	220	159	3	9,147
2002年	13	15	39	38	83	1,933	1,729	1,063	1,234	19	0	0	6,167
2003年	6	15	11	232	726	3,155	3,831	1,836	712	1,025	170	1	11,719
2004年	2	3	3	144	1,064	2,149	2,654	2,280	433	4	25	23	8,784
2005年	15	9	7	87	1,211	2,971	3,946	2,903	3,130	814	0	1	15,095
2006年	0	0	1	30	476	2,949	5,252	3,270	594	20	1	1	12,593
2007年	0	0	0	215	1,344	4,187	3,106	2,376	60	12	3	3	11,305
2008年	0	0	0	33	888	4,970	3,547	478	28	0	0	0	9,945
2009年	0	0	0	99	1,413	1,956	737	334	1	2	0	0	4,542
平均値	5	12	8	101	892	2,884	3,257	1,758	726	235	40	4	9,922

※ 灰色の塗りつぶしは漁獲量が最も多い月

測定データは福島県水産試験場が実施した水産庁の委託事業（2001 年～2005 年が日本周辺高度回遊性魚類資源調査、2006 年～2009 年が日本周辺国際魚類資源調査）による結果を利用した<sup>3-10)</sup>。尾叉長は 6 つのグループ（41cm 未満、41～45cm、46～50cm、51～55cm、56～60cm、61cm 以上）に区分し、月別にそれらの割合を計算した。水揚げサイズの変化から 4 月～6 月の漁期始めに 45cm 以下の小型魚の割合が高かった年（2001 年、2003 年～2007 年）とそれ以外の年（2002 年、2008 年、2009 年）に区分できた（図 1）。また、前者の年では漁期が経過するにつれて漁獲物の大型化が明確であったが、後者の年では 5 月、6 月の時点で 46～50cm、51cm～55cm の割合が高く、前者の年ほどはっきりした大型化はみられなかった。2007 年は 8 月、2009 年は 7 月以降、41cm 未満の小型魚が漁獲され、尾叉長組成の 2 極化がみられた。月別漁獲量の割合は 2007 年以降、高くなる月が早まり、推移がなだらかでなくなった。前者の年で平均した年間漁獲量は 11,468 t で、後者の 7,990 t を上回った。このように 2007 年あたりを境にカツオ漁況が変化している可能性が高く、今後も継続した調査が重要となってくる。

\* 福島県内水面水産試験場

## 文 献

- 1) 福島県農林水産部水産課：平成 21 年版 福島県海面漁業漁獲高統計、pp96-99 (2010)。
- 2) 福島県水産試験場：福島県主要魚種の漁獲量推移（昭和 44 年～平成 20 年）(2009)。
- 3) 福島県水産試験場：平成 13 年度事業報告書、【海洋漁業部】、V 日本周辺高度回遊性魚類資源調査、pp93-98 (2002)。
- 4) 福島県水産試験場：平成 14 年度事業報告書、【海洋漁業部】、V 日本周辺高度回遊性魚類資源調査、pp103-108 (2003)。
- 5) 福島県水産試験場：平成 15 年度事業報告書、【海洋漁業部】、V 日本周辺高度回遊性魚類資源調査、pp107-112 (2004)。
- 6) 福島県水産試験場：平成 16 年度事業報告書、【海洋漁業部】、V 日本周辺高度回遊性魚類資源調査、pp140-145 (2005)。
- 7) 福島県水産試験場：平成 17 年度事業報告書、【海洋漁業部】、II 日本周辺高度回遊性魚類資源調査、pp97-101 (2006)。
- 8) 福島県水産試験場：平成 18 年度事業概要報告書、【海洋漁業部】、浮魚の持続的利用方策の開発に関する研究、主要浮魚資源動向調査（カツオ、マグロ類）、pp34-35 (2007)。
- 9) 福島県水産試験場：平成 19 年度事業概要報告書、【海洋漁業部】、浮魚の持続的利用方策の開発に関する研究、主要浮魚資源動向調査（カツオ、マグロ類）、pp44-45 (2009)。
- 10) 福島県水産試験場：平成 20 年度事業概要報告書、【海洋漁業部】、浮魚の持続的利用方策の開発に関する研究、主要浮魚資源動向調査（カツオ、マグロ類）、pp44-45 (2010)。
- 11) 福島県水産試験場：平成 21 年度事業概要報告書、【水産資源部】、浮魚の持続的利用方策の開発に関する研究、主要浮魚資源動向調査（カツオ、マグロ類）、pp44-45 (2010)。

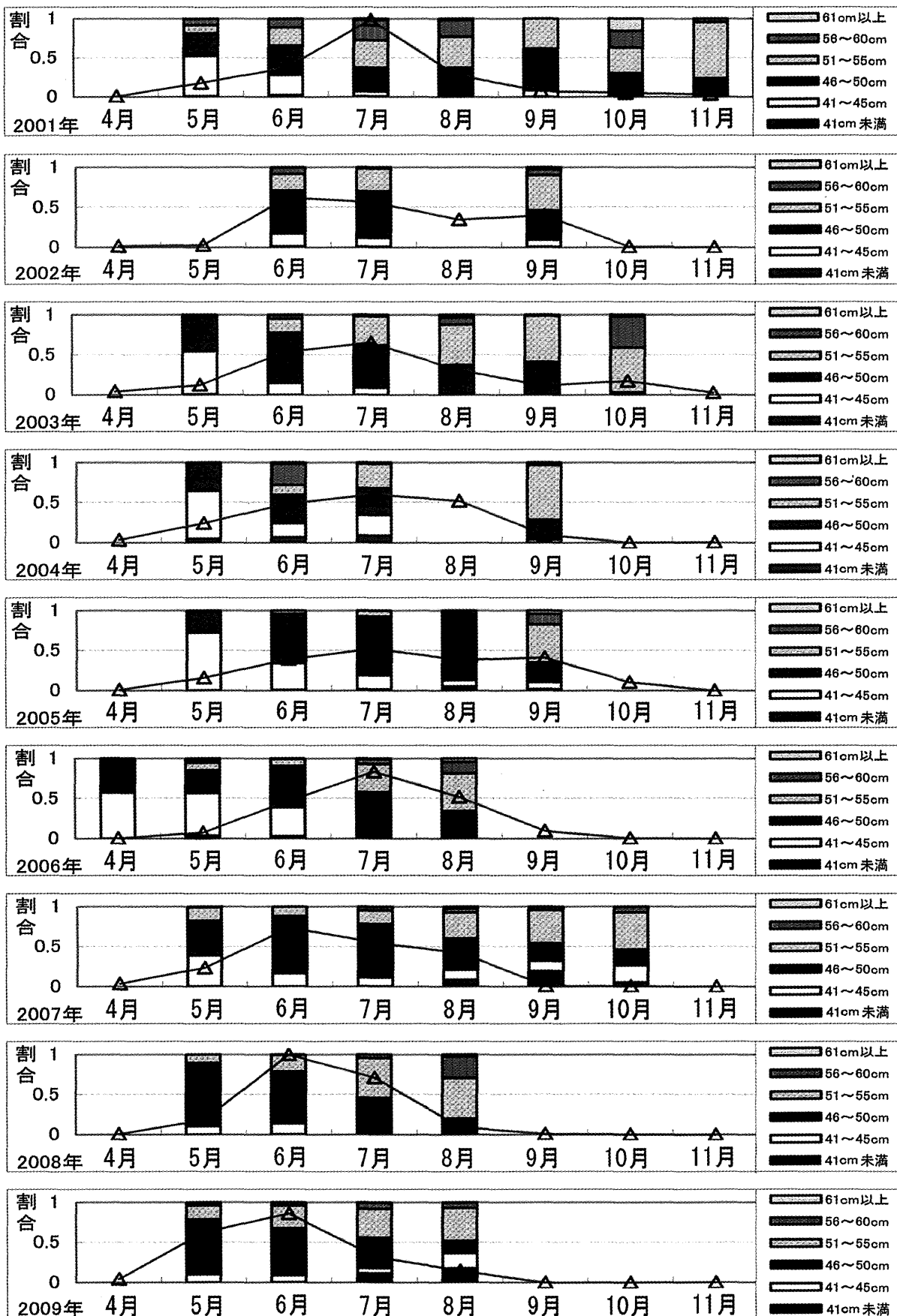


図1 福島県に水揚げされたカツオの尾叉長グループ別割合  
(折れ線は年間漁獲量に占める割合の推移、0~0.5の範囲で示す。)